



# し の の め

2018/01/23  
(平成30年1月号)  
第105号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

### 目次

校内研修支援のひろば 高校での発達障がいの理解と支援	1
学力を高める授業のポイント⑬(総合)	2
第14回産業教育MIRAIフェアの報告	4
センター研究発表会(2月16日)のお知らせ	5



## 校内研修支援のひろば 高校での「発達障がいの理解と支援」

**障害について  
理解する**

発達障がいについて体験を通して理解を深めていただくとともに、困難性のある子の理解と支援の必要性を考えていただきました。

**合理的配慮**

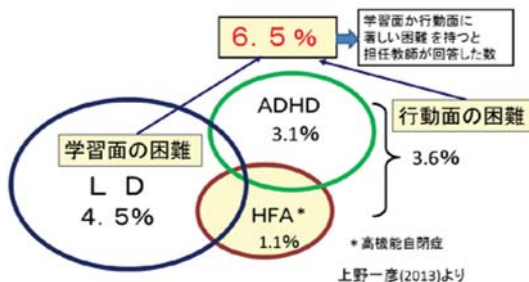
困難性のある子ども共に学ぶために必要な「合理的配慮が求められている」点、「意思の表明と合意形成」ならびに「校内支援体制」について理解を深めていただきました。

**授業のユニバーサル  
デザイン**

障がいのある子への支援でも、ほかの子にも有効な支援がたくさんあることや、他校での取り組み例をご紹介させていただき、学校での推進について考えていただきました。

### LD・ADHD・高機能自閉症は 通常の学級にどれくらいいるのか？

通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査(文部科学省2012.12)



### 障害者差別解消法の施行 平成28年4月施行

差別的取り扱いの禁止

国・地方公共団体等  
民間事業者 → 法的義務

合理的配慮の不提供の禁止

民間事業者 → 努力義務  
国・地方公共団体等 → 法的義務

「演習で不器用な子の気持ちが学べてよかった」

「授業のユニバーサルデザイン化を生かしたい」

「合理的配慮の必要性について知った」

「それぞれの状態に対応することが強く求められることが分かりました」

などの感想をいただきました。



### 意思の表明と合意形成

教科担任の先生方と話し合って・・・

先生方と話し合って考えた支援

- ・わからないところをカードで質問できる
- ・課題の提出を伸ばす、あるいは途中提出できる
- ・板書プリントを渡す
- ・プリントは拡大する
- ・今日のポイントだけをノートに書く

建設的な対話



どれがいいかな？

支援に関する意思の表明



板書プリントがあると助かります

ではそうしましょう

合意形成

### 授業のユニバーサルデザイン化

生徒の認知特性への配慮

- 教室の環境調整(座席、掲示)
- 学習に見通しを持てるようにする
- 言語指示の工夫(簡潔に、ゆっくり、はっきり)
- 板書の工夫(文字の大きさ、量、色、キーワード)
- 教材の工夫(記入しやすいプリント、絵や図、文字やモデルを補助的に用いる。)

一般の生徒を含め、多くの生徒が学力の向上を実感

学校全体の学習意欲の増進や学力の向上につながる

# 学力を高める授業のポイント⑬

## 総合的な学習の時間編



子どもたちは、「育てた地元特産のレタスを全校のみんなに食べてほしい」という願いをもち、給食の先生（学校栄養士）に伝え、その願いを受け止めてもらいました。そして、全校に届けるレタスづくりが始まったんだ。

収穫までにはどんなことがあったのかな？ 順調だったの？



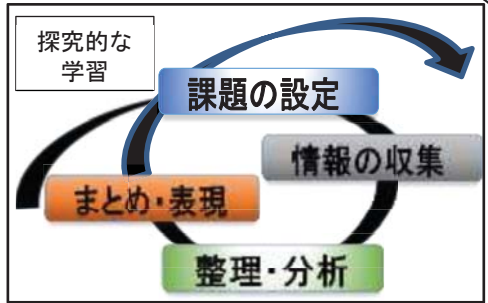
JAの指導員さんに教わりながら進めたので、比較的うまくいったと思うよ。ただ、苗植えを終えた頃、レタスは虫に食べられやすいことを調べてきた子がいて、虫対策をどうするかという課題が設定されたんだ。農薬は使いたくないという思いから、網を張って虫を寄せ付けないように工夫したんだ。



順調に進まないからこそ、子どもたちに課題解決するやりがいがあるのよね。



レタスの活動を、まとめりとして見ると、右図にある探究的な学習の“4つのプロセスの連続”として、みることができます。このプロセスは子どもが本気になって探究している時に見られる過程をまとめりとして端的に表したものです。このプロセスは、教師が順番に進める指導段階ではないことに注意してください。



### 課題の設定

### 情報の収集

### 整理・分析

### まとめ・表現

“全校に食べてもらうレタスづくり”と願いをはっきりさせて活動を始める。栽培を続ける中“レタスは虫に食べられやすい”という情報を得て「どうすれば虫の被害を防げるのか？」と課題を設定。

解決策を見つけようと、親に聞き取ったり、調べたり情報を収集。

集めた情報を整理・分析して「網を張れば、レタスを守れるのではないか」と解決策を見出す。さっそく対策を講じるために行動開始。

栽培を継続…。そして、収穫…

### 課題の設定

### 情報の収集

### 整理・分析

### まとめ・表現

「全校のみんなに食べてもらいたい。どうすればいいか？」と課題を設定。

「給食の材料としてレタスを使ってもらえば、全校のみんなに食べてもらえる」と解決策を見出す。

「栄養士の先生にレタスを届けて、再度お願いしよう」と解決に動き出す。



振り返ってみると、レタスは虫に食べられやすいという情報を得た頃から、子どもたちの目の色が変わった気がするな。子どもが自ら情報を収集してくるのって大事なんだね。



数々の課題解決を経て収穫できたレタスが、全校のみんなに食べてもらったのだから、子どもたちは大喜びだったでしょうね。



もちろん喜んだけど、「もっと作ってみたい」と、子どもたちが言い出したんだ。レタスが育っていく様子を見ていて、そんな思いになったんだ。新たな課題を解決するために、JAに電話をした。すると、「レタスは時期的に無理だよ」と言われてしまって…。そうしたら情報を整理・分析して「時期に合う野菜はないかな」という課題を再設定して、『今から育てられる野菜調べ』の情報収集が始まったんだ。



子どもたちは、課題を解決するために、今からでも育てられる野菜を調べていく中で、キャベツなら栽培できることを突き止めて、野菜づくりの第2弾をキャベツで始めました。1回目のレタスの時には、JAの方に教わりながらやりましたが、「今度のキャベツは自分たちでやってみたい」という強い願いが生まれ、“自分たちの活動”にしたいと願い、動き始めていました。

探究的な学習の“4つのプロセス”は、1サイクルで完結するものではなく、**まとめ・表現** から、新たな **課題の設定** へ移行していきます。教師は、子どもが主体的に取り組めるように創意工夫を凝らし、子どもが何に興味を示しているのかを、子どもと共に活動する中で把握することが大切です。

さて、教師が子どもたちに任せる活動に見通しをもつために、あるいは、活動の広がり支援するために、下図のような『ウェビングマップ』をつくってみることも有効ですね。



中心の四角が仮の活動名で、そこから「どのような活動が生まれそうか」を考え、活動を広げていきます。思い浮かぶものをどんどん繋げていき、子どもの次の活動に思いを巡らせます。空欄を埋めてみましょう。



今の子どもたちが大人になる2030年頃には、現在では存在しない職業がたくさん生まれて、今ある職業の多くがなくなる可能性が高いといわれています。このような時代を生き抜くための学力は、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」です。探究な学びを大切にしましょう。

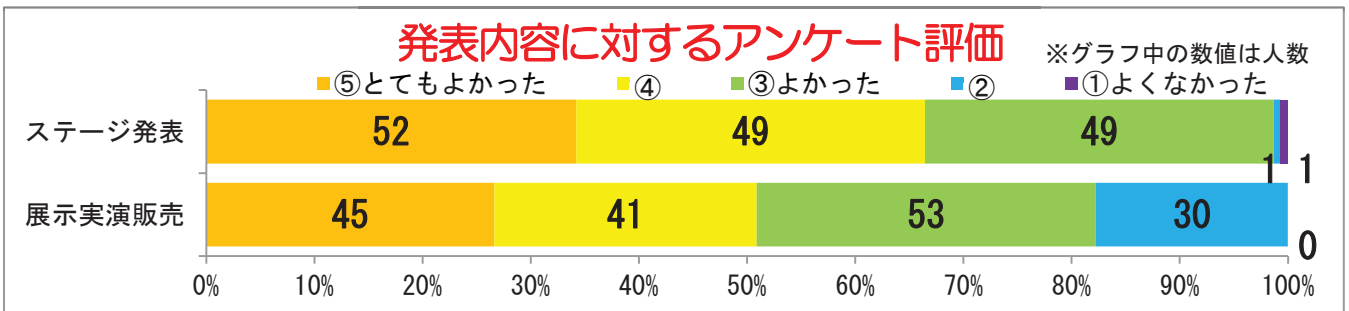


# ～ 未来につながる 探究的な学び合い！～

## 第14回 産業教育MIRAIフェア2017

平成29年12月16日(土) 開催

県内の専門学科・総合学科の高校生、関係者222名の皆様にご来場いただきました。  
 ステージ発表では、農業・工業・商業・家庭・福祉・総合学科の各分野で16団体が学習の  
 成果を発表し、学習交流会では30団体が作品展示、実演、販売実習を行いました。  
 専門学科・総合学科の学びを知ることで、未来を創造するきっかけとなりました。



### 参加者の感想

まちがえちゃった時もあったけど正解した時はうれしかった。くわしくなって大人になったらこういう勉強をしたいです。  
 (キッズプログラミング講座参加小学生)

自分の進路について、考えをより深めることができた。高校生のレベルの高さにおどろいた。専門学科や総合学科の活動を知り、より関心を持った。(中学生)

高校生の思考力の高さを感じました。地域の方のご協力と高校生の方で、長野県の未来が明るいと感じました。(中学保護者)

他校の取り組みがよくわかりました。回を増すごとに発表レベルが上がっているように感じました。(高校職員)

他校の発表や成果を見ることで自分たちの研究に生かせる点がいくつも見つかった。自分たちの活動が多くの方に見ただけで良かった。(高校生)

地域活性化につなげてほしいと思い、我々も努力すること、未来につながる学びを得ることができました。(来賓)



### 発表参加校

- |       |      |       |         |       |       |
|-------|------|-------|---------|-------|-------|
| 中野立志館 | 長野工業 | 上田千曲  | 佐久平総合技術 | 辰野    | 駒ヶ根工業 |
| 富士見   | 諏訪実業 | 上伊那農業 | 駒ヶ根工業   | 下伊那農業 | 木曾青峰  |
| 塩尻志学館 | 松本工業 | 南安曇農業 | 穂高商業    | 池田工業  | エクセラン |



教育をタイムリーにチェンジする

平成 29 年度 長野県総合教育センター

# 研究発表会

～多様化する教育現場の課題解決に取り組む教職員を支援する調査研究～

平成 30 年 2 月 16 日 (金) 開催

参加受付中!

- 小・中・高・特別支援学校の教職員, 教育関係機関等の職員の皆様、ぜひご参加ください。
- 発表会の内容の詳細については、近日中に送付の「センター研究発表会 第 2 次案内」をご覧ください。

申込み締切日

平成 30 年 1 月 31 日 (水)

時間	内容		
9:30~9:40	開会行事		
9:40~10:10	○オープニング対談 「主体的・対話的で深い学びにつなぐ」  塩谷 賢氏 (哲学者)      茂木 健一郎氏 (脳科学者) コーディネーター 酒井 賢一 (長野県総合教育センター)		
10:30~12:00	分 科 会 1		
	<b>A</b> 「グローバル時代に求められる力」をつけるには 各方面の調査を基に、「グローバル時代に求められる力」とそれをつけるための手立てを考えていきます。	<b>B</b> 子ども自ら課題を発見し、探究的に学んでいく学習に関する研究 実践事例から、子どもと教師の具体的な姿を通して、探究的な学びに役立つポイントについて考えます。	<b>C</b> 小学校段階におけるプログラミング教育 各教科等における小学校でのプログラミング教育について、どのように取り組んでいくのかを考えます。
	昼 食		
12:00~13:00	分 科 会 2		
	<b>D</b> 職場のパートナーシップにつながる校内研修の充実に向けて 若手教員を支える職場のコミュニケーションのあり方を通して、教員同士の学び合いについて考えます。	<b>E</b> 困難さのある児童生徒を支える学校体制づくり 現場の先生方の声を聞きながら開発した、教職員間をつなぐ連携シートの紹介をします。	<b>F</b> 「主体的・対話的で深い学び」の ICT 活用 タブレット端末を利用した授業での先進的な取組から、効果的な ICT 活用の手立てを考えます。
	○クロストーク 「教への深淵」 塩谷 賢氏 (哲学者)      茂木 健一郎氏 (脳科学者) コーディネーター 酒井 賢一 (長野県総合教育センター)		
16:20~16:30	閉会行事 アンケート記入		